PART2　活用表の書き方・終止形が一文字の動詞

★「基本形」と「語幹」

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	マ行上一段活用

①「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をU段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

（例）現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

②「語幹」＝「基本形」－「終止形」の文字

（例）「咲く」－「く」＝「咲」が語幹
「見る」－「みる」＝語幹なし

★終止形が一文字の動詞

来＝　行　活用

す＝　行　活用

得＝　行　活用

寝＝　行　活用

経＝　行　活用

問一　次の傍線部の漢字の振りがなの中に、不適切なものが一つある。その記号を示して、正しい振りがなを書け。

年ごろ（ア）経（へ）るほどに、…
君があたり見つつを（イ）居（を）らむ生駒山…
かの山の中に（ウ）居（ゐ）て、言ひいでて…

問二　傍線部の動詞の活用の種類として、最も適当なものを次の中から一つずつ選べ。

百年、千年を（a）経て見れども、…
いみじくあはれなるは（b）あれ。
末の世にとどまるばかりのふしを書き（c）とどむべき、とはおぼゆる。
いまだ宮仕へも（d）せで里にはべりける折、…
「〜」などこそ（e）見えてはべれ。

ア　ア行四段活用　　イ　マ行四段活用　　ウ　ラ行四段活用　　エ　カ行上一段活用
オ　タ行上二段活用　　カ　マ行下二段活用　　キ　ハ行下二段活用　　ク　ヤ行下二段活用
ケ　サ行変格活用　　コ　ラ行変格活用

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

〈Memo〉

第4講　PART2　確認問題

① 傍線部の活用の種類と活用形として適当なものを次の中から選べ。

「心を悩ますことは、…」

ア　サ行四段活用・終止形　　イ　サ行四段活用・連体形
ウ　サ行下二段活用・終止形　　エ　サ行下二段活用・連体形

② 傍線部の読みとして適当なものを、次の中から選べ。

「やはらかに寝る夜はなくて、…」

ア　に　　イ　ぬ　　ウ　ね　　エ　いぬ

③ 傍線部の語幹として適当なものを、次の中から選べ。

「後(うしろ)かげの見ゆるまではと見送るなるべし」

ア　見　　イ　見ゆ　　ウ　見ゆる　　エ　語幹なし

④ ［　　］に入れる言葉として最も適当なものを次の中から選べ。

「世に伝ふ事も［　　］し」

ア 侍ら　イ 侍り　ウ 侍る　エ 侍れ

⑤ 傍線部の活用の種類として最も適当なものを次の中から選べ。

「昔人は、かくいちはやきみやびをなむ<u>し</u>ける」

ア サ行四段活用　イ サ行上一段活用

ウ サ行変格活用　エ サ行下二段活用

第4講　PART2　解答

問一　ア／ふ（る）

問二　a キ　b コ　c カ　d ケ　e ク

第4講　PART2 確認問題　解答

〔解説〕

①「悩ます」はサ行四段活用。下に「こと」という体言があるので連体形。

②「寝」はナ行下二段活用で、終止形が「寝」と一文字になり、「ね・ね・ぬ・ぬる・ぬれ・ねよ」と活用する。

③「見ゆる」の基本形は「見ゆ」。ヤ行下二段活用で、語幹は「見」である。

④「侍り」はラ行変格活用。下に「し」とあるので、連用形の「侍り」が入る。

⑤「し」はサ行変格活用動詞「す」の連用形。

〔解答〕

①イ　②イ　③ア　④イ　⑤ウ